

香港株式市場フラッシュ

中国 GDP 成長率と不動産不況、再エネ・EV 関連銘柄が堅調

リサーチ部 笹木和弘

Tel: 03-3666-6980

E-mail: kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp

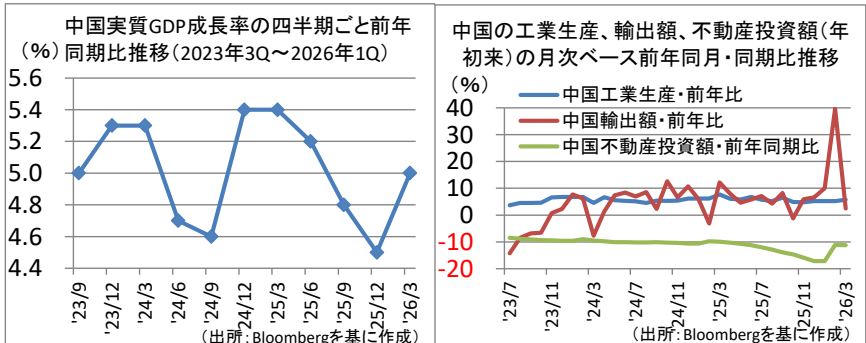
フィリップ証券株式会社

2026年4月22日号(4月22日作成)

”GDP は好調だが、不動産不況の影響が尾を引く”

中国国家統計局が4/16に発表した1-3月の実質国内総生産(GDP)は前年同期比5.0%増となった。1-3月の工業生産は前年同期比6.1%増、輸出も14.7%増で押し上げ要因となった。1-3月時点では政府の2026年の成長率目標(4.5~5.0%)を達成した。対照的に、景気の重荷となっている不動産市況は冷え込みが目立ち、不動産投資も1-3月で11.2%減と落ち込んだ。消費がさえないこともあり、生活実感に近い1-3月の名目GDPは4.9%増と実質GDPの伸びを下回る「名実逆転」が続き、需要不足が根強い。

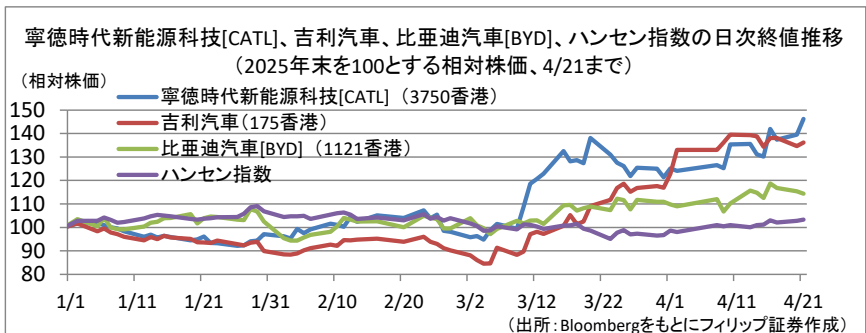
中国の不動産市場では、マンションが完成せずに引渡しができない問題が残っていた。政府が2020~21年にバブル抑制のため不動産向け金融規制を強化したことから工事をする資金が足りなくなる会社が続出し、工事が中断して事前に契約した購入者に引き渡されないケースが相次いだ。政府は不動産会社を財政面で支援してマンションを完成に導き、購入者に引渡す政策である「保交房」を強化してきた。李強首相は3月の全国人民代表大会(全人代)の政府活動報告で「『保交房』の任務を全面的に完了した」と宣言したものの、強引に物件引渡しを進めたことから入居後に様々な問題が発生している例も見られ、問題は尾を引きそうだ。



”中国の再エネ・EV 関連銘柄の株価が堅調”

2月末の米国のイラン攻撃以降、中国の電気自動車(EV)大手の吉利(ジーリー)汽車(175 香港)および車載電池大手の寧徳時代新能源科技[CATL](3750 香港)の株価が堅調に推移している。また、2025年に米テスラを抜いて純電気自動車(BEV)の販売で世界首位に躍り出た比亞迪汽車[BYD](1121 香港)の株価も3月以降、香港ハンセン指数をアウトパフォームしている。

米とイランの停戦が成立してもかつてのような安定が中東に戻るの難しいのではないかと見方が有力となるなか、世界各国はホルムズ海峡を通る石油やガスへの依存度を下げる動きを強め始めている。その有力な代替エネルギーの供給源とみなされているのが中国の再生可能エネルギーである。中国では習近平国家主席が産業育成策「中国製造2025」を打ち出し、EVや太陽光発電などに資金を傾斜投入してきた。中国は2025年だけで米国内の電力網全体に匹敵する規模の420GW(ギガワット)の発電容量を積み増した。米国が自国産原油・天然ガスといった化石燃料を世界に買うように求める政策を打ち出しているのに対し、中国は「電気国家」として近隣諸国に対し電力の輸出を目指しているように見受けられる。AIの駆動に大量の電力が必要であることから、米中の人工知能(AI)覇権を巡る競争においても電力の供給力に勝る中国の競争力が高まる可能性がある。



ハンセン指数またはハンセンテック指数構成銘柄(全100銘柄)における終値の昨年末来騰落率

前回基準日: 20260407 基準日: 20260421

順位	2025年末来騰落率・上位10銘柄 (%)	前回順位	
1	新鴻基地産発展[サンファンカイ・プロパティーズ]	47.2	1
2	吉利汽車控股[ジーリー・オートモービル・HDS]	36.2	2
3	JD Logistics Inc	36.1	6
4	蔚来汽車[ニオ]	28.5	12
5	華虹半導体[ファホン・セミコンダクター]	28.4	40
6	ZTOエクスプレス(ケイマン)	27.7	11
7	創科実業[テクトロニック・インダストリーズ]	27.7	14
8	中国海洋石油 [CNOOC]	24.9	4
9	万洲国際[WHグループ]	24.8	7
10	中国石油天然気 [ペトロチャイナ]	24.6	3

順位	2025年末来騰落率・下位10銘柄 (%)	前回順位	
100	Tencent Music Entertainment Group	-40.9	100
99	中升控股 [フンサン・グループ・ホールディングス]	-33.6	95
98	金蝶国際軟件集団 [キングディー・ソフトウェア]	-31.5	99
97	Kuaishou Technology (快手)	-27.5	98
96	携程旅行網 [トリップドットコムグループ]	-22.9	97
95	申洲国際集団控股 [シェンジョウインターナショナルG]	-18.1	92
94	小米集団 [シャオミ]	-17.6	90
93	Meituan (美团)	-16.3	91
92	比亞迪電子(国際) [BYDエレクトロニック]	-15.9	88
91	中芯国際集成電路製造 [SMIC]	-15.9	96

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

【2026年4・5月: 中国主要経済指標】

- 4月10日(金)
 - ・2月消費者物価指数(CPI)<前年同月比>: 前回+1.3%、結果+1.0%
 - ・2月卸売物価指数(PPI)<前年同月比>: 前回▲0.9%、結果+0.5%
- 4月13日(月)
 - ・3月資金調達総額: 前回9.60兆元、結果14.83兆元
 - ・3月新規人民元建て融資: 前回5.61兆元、結果8.60兆元
 - ・3月マネーサプライM2<前年同月比>: 前回+9.0%、結果+8.5%
 - ・3月新築住宅価格<前月比>: 前回▲0.28%、結果▲0.21%
- 4月14日(火)
 - ・3月貿易収支: 前回+909.8億USD、結果+511.3億USD
 - ・3月輸出<前年同月比>: 前回+39.6%、結果+2.5%
 - ・3月輸入<前年同月比>: 前回+13.8%、結果+27.8%
- 4月16日(木)
 - ・3月小売売上高<前年同月比>: 前回+2.8%、結果+1.7%
 - ・3月鉄工業生産<前年同月比>: 前回+6.3%、結果+5.7%
 - ・1-3月不動産投資<前年同期比>: 前回▲11.1%、結果▲11.2%
 - ・1-3月固定資産投資<前年同期比>: 前回+1.8%、結果+1.7%
 - ・1-3月GDP<前年同期比>: 前回+4.5%、結果+5.0%
 - ・3月住宅販売面積<前年同月比>: 前回▲21.8%、結果▲18.5%
 - ・3月調査失業率<前年同月比>: 前回5.3%、結果5.4%
- 4月20日(月)
 - ・1年ローン・プライムレート: 前回3.00%、結果3.00%
 - ・5年ローン・プライムレート: 前回3.50%、結果3.50%
- 4月22日(水)~24日(金)
 - ・3月対外直接投資<前年同月比>: 前回▲5.7%
- 4月27日(月)
 - ・1-3月工業利益<前年同期比>: 前回+15.2%
- 4月30日(木)
 - ・3月製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回50.4%
 - ・3月非製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回50.1
 - ・3月(RatingDog)製造業PMI: 前回50.8
- 5月3日(金)
 - ・3月(RatingDog)サービス部門PMI: 前回52.1
- 5月7日(木)
 - ・3月外貨準備高: 前回3.342兆USD

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会認定アナリスト、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考としてレポートの作成者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害について、フィリップ証券も、当レポートの作成者も、責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載することを禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく表示>

・フィリップ証券または本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。